

**2012年度**  
**海外研修・研究等助成金**  
**募集案内**

## 一般財団法人 企業経営研究所について

一般財団法人企業経営研究所は、1982年7月に、スルガ銀行の創立90周年を記念し、地域経済社会の新しい方向を模索し、中堅・中小企業経営の健全な発展、育成に寄与することを目的として設立されました。

当研究所では、設立趣意に則り、地域の中堅・中小企業の実証的調査研究や企業の戦略的行動に必要な情報の提供などを通じて、企業の健全な発展と育成に努めてまいりました。さらに、1996年4月より、国際交流支援事業として次の4つの事業を追加しました。

- 1.外国人・研修研究等助成事業
- 2.海外研修・研究等助成事業
- 3.国際交流功労顕彰事業
- 4.国際交流活動助成事業

これらの事業を通じて、地域経済社会の国際化に対応する人材を育成するとともに、人、物、情報、技術、文化などの内外の交流活動を積極的に支援しております。

- 名称 一般財団法人 企業経営研究所
- 設立 1982年7月26日
- 理事長 岡野 光喜(スルガ銀行 代表取締役社長兼CEO)
- 所 長 磯邊 剛彦(慶應義塾大学経営大学院 教授)
- 所在地 〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号  
ミシマ・スルガビル4F

## 海外研修・研究等助成金について

この助成金は、海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を伝え、分かち合うことを志す方を対象に助成するものです。

## 近年の助成対象 研修・研究テーマ

- シンガポールの数学教育を通して次世代の教育を考える
- 韓国の小学生教育に学ぶ
  - －ICT活用・英語教育・教員研修の視点から－
- ESD先進国ドイツに学ぶ環境教育
  - －地域づくり参加型の「INOHANAプロジェクト」の構築を目指して－（研修内容別添）
- 特別支援学級の児童も含めた数概念形成・算数の基礎学力向上に向けた学習具・教材・授業についての研修

## 2012年度 海外研修・研究等助成金 応募要綱

助成金交付額	1件当たり最高50万円
対象テーマ	海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を与え、分かち合う趣旨・内容であること ※左ページに例示したテーマ以外でも、上記に合致する内容であれば幅広く受け付けます。ご不明の際は弊所担当者宛お問い合わせ下さい。
応募資格	静岡県内の小学校、中学校、特別支援学校、および高等学校に常勤する教職員の方で、次の事項のすべてに該当する方を対象とします。 (1) 海外での研修、研究を志す意欲旺盛な方 (2) 原則として年齢50歳以下、勤続3年以上の方 (3) 勤務先学校長の推薦が得られる方 ※なお、各学校において複数名応募いただいても結構です。
助成対象期間	12ヵ月以内(原則として決定通知後6ヵ月以内に研修開始)
応募方法	下記の必要書類を当研究所まで郵送にて提出して下さい。 (1) 助成金交付申請書(所定様式※) (2) 勤務先学校長の推薦書(所定様式※) ※助成金交付申請書および推薦書は、当研究所のホームページよりダウンロードしてご利用下さい。 URL: <a href="http://www.srgi.or.jp">http://www.srgi.or.jp</a>
採用予定数	若干名
募集締切日	2012年5月31日(木) 締切当日消印有効
選考	(1) 当財団の選考委員会にて審査・選考の上、理事長が決定します。 (2) 選考の結果は、2012年6月中旬(予定)に、申請者・推薦者宛書面にて通知します。

### ◎交付対象者への注意事項

交付方法	助成金は、原則として一括交付します。
報告の義務	対象となる研修活動の開始および終了時に、下記の書類を提出していただきます。 (1) 研修開始通知書 (2) 助成金使途報告書・研修報告書 (3) 研修レポート

# シンガポールの数学教育を通して 次世代の教育を考える

静岡県立清水西高等学校 教諭 永井 絢

学習指導要領の改訂で掲げられた「英語教育」「理数教育」について学ぶため、評価が高いシンガポールにて現地の幼稚園、中学校、高等学校を訪問した。

## 1 教育制度

シンガポールでは国家統一の小学校卒業認定試験(PSLE)があり、結果が悪ければ留年する。また PSLE の結果によって進学する中学コースが選別される。その後も中学卒業時、高校卒業時の国家統一試験(国際基準で設定されている)ごとに進学先が細分化され、児童生徒の学力にきめ細かく対応できるシステムになっている。全ての小中高が公立であり、個々の能力に見合った学習を平等に国が提供している。学習内容は日本よりも2年ほど早い。

## 2 幼児教育

訪問した幼稚園では時間割に沿って教科授業が行われていた。算数は割り算までを学習、言語では英文の書き取りをし、中国語を学び、パソコンを用いて写真加工を行っていた。算数の授業では歌を用いて引き算を教え、ドリルで計算練習をしていた。このドリルが実学に繋がり、価値観や言語活動、道徳教育の要素を含む体系的教材に工夫されていた。シンガポールにおける幼児教育の質の高さに感銘を受けた。市販の家庭学習教材も充実し、この時期に学習に対する興味と姿勢を養い、わかる楽しさを体験させることで、その後の教科学習への抵抗が軽減されていると感じた。

## 3 言語教育、数学教育

シンガポールでは2言語以上を習得することに加え、ICT技術を活用するうえで数学は必須と考えられている。言語教育では国際舞台で通用する内容を前提にクリティカルシンキングを鍛え、プレゼンテーションなどのアウトプット訓練を重視していた。言語習得の要求レベルは非常に高く、それに対し数学はやればできると児童生徒が感じる程である。そのため理数離れが見られない。数学は文章題が多く、小学生までには割合や図形問題、高等学校基礎では統計学を中心に扱うなど実学重視であった。

## 4 教育への関心

人材が唯一の資源であるシンガポールでは教育が国づくりの基盤との認識がある。潤沢な資金と設備が提供され国民の関心が高い。様々な国家政策は自国民の教育に繋がっており、それらは明確な中長期的ビジョンのもと一貫性を持って実践されている。研修によって教育省の指針が教諭一人ひとりに良く浸透しており、ぶれることなく実行され効果を発揮していると感じた。この数十年の教育改革の強靱なパフォーマンスに納得がいった。

## 5 今後の活動

数学教育では、幼児教育、義務教育から見直し、取り扱う分野の精選や体系を考える必要がある。数学で既習していない内容を理科で扱わなければならない不効率的な教育課程を検討し、学習指導要領の改訂を踏まえた理数教育と言語活動の充実に努めたい。また、教育制度や教育の平等性についての価値観は学ぶべき点があり、自己の指導に反映させ、これからの時代と国際社会を見据えて自国の教育による『日本人』の育成に貢献したい。

(※勤務先学校は助成時点のものです)



Pioneer Junior College  
校長、英語・数学主任  
の先生方と



授業風景  
(Bethesda Hall  
Depot Walk  
Kindergarten)

---

お問い合わせ先

**一般財団法人 企業経営研究所**  
**(国際交流支援事業 事務局)**

〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号

ミシマ・スルガビル4F

TEL:055-981-3033 FAX:055-981-5888

E-Mail:webmaster@srgi.or.jp

URL:<http://www.srgi.or.jp>